

ありたい姿の実現に向けて、挑戦し、飛躍する

～グループ長期ビジョン2025と中期経営計画～



高速道路リニューアルプロジェクト(関越道 水上IC～湯沢IC)



常磐道4車線化工事



東北道 蓮田SA(上り線)完成式典(2019年7月)



取締役兼常務執行役員
経営企画本部長

小林 靖

NEXCO東日本グループは、グループ長期ビジョン2025の実現に向け、2017年度から2020年度までの4年間で「将来のありたい姿を実現するために挑戦し、飛躍する期間」と位置づけた『中期経営計画(2017年度～2020年度)』を2017年に策定し、社会的使命を果たすための5つの基本方針のもとに、グループ一体となって事業を実施してまいりました。

2019年には、多数存在する暫定2車線区間や高速道路の逆走、歩行者・自転車の誤進入など多様化する課題や、激甚化した広域的・同時多発的な風水害に対応し、高速道路の更なる機能強化を図るため、国土交通省が策定した「高速道路における安全・安心基本計画」を踏まえ、「高速道路における安全・安心実施計画」を策定しました。

「安全・安心実施計画」で策定した各施策の着実な推進および2020年度が最終年度となる中期経営計画の達成に向けて、グループ経営ビジョンで掲げた「つなぐ」価値を創造し、あらゆるステークホルダーに貢献する企業グループとして成長することを目指し、NEXCO東日本グループ一体となって取り組んでまいります。

グループ長期ビジョン2025

NEXCO東日本グループは、グループの企業価値をさらに高め、継続して使命を果たし続けるため、民営化20年後を見据えた2025年にありたい姿を『グループ長期ビジョン2025』でまとめています。

- 国民から信頼されている企業 ～ Reliable
- お客さまに必要とされている企業 ～ Required
- 地域社会の期待に応えている企業 ～ Responsible
- 国際社会から認められている企業 ～ Recognized
- 社員がやりがいを実感している企業 ～ Rewarding

(2014年5月策定)

安全・安心実施計画の策定

国土交通省が策定した「高速道路における安全・安心基本計画」を踏まえ、2019年12月20日に「高速道路における安全・安心実施計画」を策定しました。

この計画では、高速道路の安全性、信頼性や使いやすさを向上するため、次の項目について具体施策を策定しています。

(1) 暫定2車線区間の解消

1. 計画的な4車線化の推進
2. 暫定2車線区間の安全対策の推進

(2) 自動運転などのイノベーションに対応した高速道路の進化

1. 自動運転に対応した道路空間の整備
2. 高速トラック輸送の効率化

(3) 世界一安全な高速道路の実現

1. 事故多発地点での集中的な対策
2. 逆走対策

(4) ネットワークの信頼性の飛躍的向上

1. 災害時の通行止め時間の最小化
2. 工事規制の影響の最小化
3. 雪氷対策
4. 渋滞対策
5. 構造物の老朽化対策
6. 維持管理業務プロセスの高度化・効率化

(5) お客さまニーズを踏まえた使いやすさの向上

1. 休憩施設の使いやすさの改善
2. 高速バスの利便性向上
3. 訪日外国人旅行者への対応
4. スマートICなどによる地域とのアクセス強化
5. 現地の交通状況に応じた交通運用

「高速道路における安全・安心実施計画」

https://www.e-nexco.co.jp/pressroom/head_office/2019/1220/00001688.html

全体像 ～5つの基本方針と重点計画～

01 安全・安心・快適・便利な高速道路サービスの提供

- 安全を最優先にお客さまが安心して利用できる高速道路サービスの提供
 - 高速道路リニューアルプロジェクトの推進
 - SMH(スマートメンテナンスハイウェイ)の実現と資産健全性の確保
 - 防災・減災の強化 ● 交通事故の削減 ● 車両制限令違反の抑制 ● 雪氷対策の高度化
- 高速道路ネットワーク整備と高速道路を賢く使うための機能強化の着実な推進
- お客さまのニーズを踏まえた快適で便利な高速道路サービスの展開
 - 円滑な交通確保 ● 経路選択などの情報提供充実(ETC2.0データの活用)
 - 効率的で利便性の高い料金サービスの展開
 - 商業施設の新設・増改築・老朽化更新の計画的な実施
 - ガスステーション営業体制の維持・強化、急速充電器の整備
- 安全を最優先に、品質・コスト・生産性を追求し、維持管理しやすい高速道路づくり

02 地域社会への貢献とインバウンド・環境保全への対応

- 地域社会への貢献
 - 観光振興・東日本大震災復興支援
 - 地域と連携した高速道路整備
 - 自治体などへの技術支援
- インバウンド、東京2020オリンピック・パラリンピック対応
- 環境保全の推進

04 関連事業の収益力強化

- 経営資源の最適な活用により、お客さまサービスと企業価値を向上させるとともに、さらなる効率化により収益力を強化
 - ◀SA・PA事業▶
 - SA・PAの魅力向上のための施策の実施
 - 商業施設の効率的な運営
 - ◀その他事業▶
 - 展開している事業の収益力強化
 - 未利用地の利活用
 - 新たな事業の創造
 - 海外事業の推進

03 社会に貢献する技術開発の推進

- 安全を最優先とした業務の高度化・省力化につながる技術開発(ICT、AI、IoT、ビッグデータなどの活用)
 - SMHの実現、交通安全、雪氷対策の高度化のための技術開発
 - 新たな車両技術の活用(自動運転技術の活用検討)
 - NEXCO東日本 総合技術センターの整備・活用による技術開発の推進

05 グループ全体の経営力強化

- グループ経営の高度化の追求
- 内部統制、人材確保・育成、生産性向上など
 - 内部統制システムの一層の強化・充実
 - 人材の確保・育成と「やりがい」「満足感」を実感できる環境づくりの推進
 - NEXCO東日本 総合技術センターの整備・活用による現場対応力などの向上
 - E-Shokubaづくり運動(健康経営の推進)・女性活躍推進
 - 業務の最適化、生産性向上の推進
 - 企業ブランドの向上

財務計画

高速道路事業

【損益計画】

高速道路機構との協定に基づき、お客さまからいただく高速道路料金収入から、高速道路機構が保有する債務の返済に充てる道路資産賃借料の支払いおよび必要な高速道路管理を着実にまいります。

【投資計画】

機構資産^{※2}については高速道路機構との協定に基づき、外環道(三郷南～高谷JCT、大泉JCT～中央JCT)、横浜環状南線(釜利谷JCT～戸塚)、常磐道4車線化事業などの新設・改築事業および高速道路リニューアルプロジェクトなどの修繕事業で約2兆2,000億円の投資を計画しています。

会社資産については、料金収受機械、ETC設備の整備、老朽化更新などで約1,200億円の投資を計画しています。



※1 2019年3月26日に高速道路機構と締結(変更)した協定の計画値(税抜)
 ※2 完成後に高速道路機構へ引き渡すこととしている道路資産

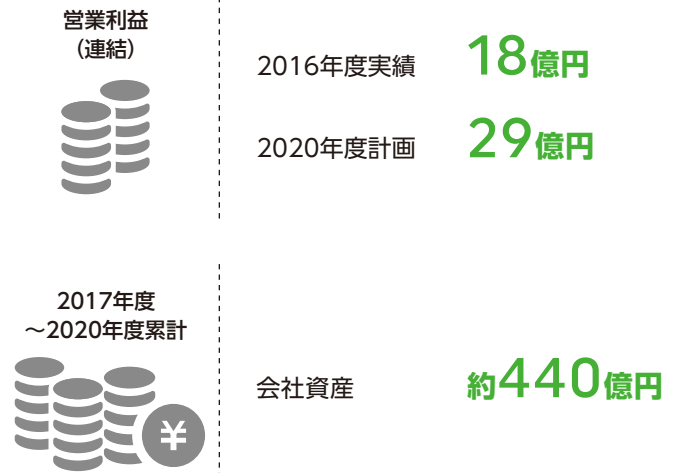
関連事業

【損益計画】

経営資源の最適な活用により、お客さまサービスと企業価値を向上させるとともにさらなる効率化により収益力を強化し、最終年度(2020年度)の営業利益は29億円を目標にします。

【投資計画】

商業施設の新設・増改築・老朽化更新などの関連事業資産およびNEXCO東日本 総合技術センター整備、システムのリプレースなどの事業共用資産に約440億円の投資を計画しています。



※民営化と高速道路事業のスキームの概要はP8を参照ください。

「中期経営計画の概要、主な取組み」
https://www.e-nexco.co.jp/company/strategy/mid_term/